

2022年11月21日

通貨ニュース

マレーシア：総選挙実施も不安定な政局は変わらず

マレーシアでは19日、連邦議会下院選挙が実施された。アンワル元副首相が率いる希望連盟(PH)、ムヒディン前首相がトップの国民同盟(PN)、イスマイルサブリ現首相が所属する国民戦線(BN)のうちどの政党が勝利するかが主な争点であったが、結果はそれぞれ82議席、73議席、30議席といずれの政党も過半数獲得には至らなかった(図表1)。マレーシア憲法では、国王が下院議員の過半数の信任を得ていると判断する議員を首相として任命すると定めており、今後はPHやPNがどのようなかたちで連立政権を形成するかが注目される。

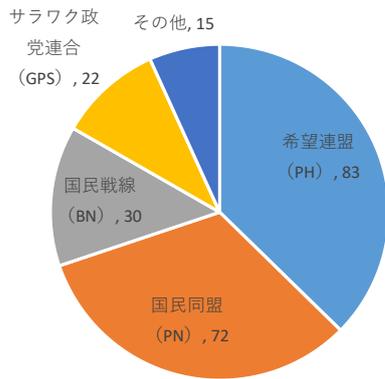
過去の政局を簡潔に振り返ると、ムヒディン前首相は連立相手の政党の所属議員による連立政権離脱が相次いだことで、議会の過半数の支持を維持できず21年9月に辞意を表明。その後アブドラ国王がイスマイルサブリ現首相を新たに過半数の議員の支持を得たとして新首相に任命した。とは言え、同氏の支持も辛うじて過半数を満たしている状況が続いた。早期の政情安定化が課題であったものの、マレーシア経済が新型コロナウイルスの感染拡大で低迷したこともあり、各党との協調を得ながら、景気回復を優先するかたちでイスマイルサブリ首相は政権運営を続けた。かかる中、マレーシア経済が足許で堅調さを取り戻しつつあること(図表2)、各党の対立が表明化する前に総選挙を実施したいといった思惑から、10月に連邦議会下院を解散し今回の選挙に至った。

今回の選挙では19年の憲法改正によって選挙権を持つ年齢が21歳以上から18歳以上に引き下げられて最初の総選挙であり、PHやPNの優勢は若年層の支持を取り込めたことによるものといった声も見られる。片や、長年マレーシアの政治をリードしてきたマハティール元首相は今回の選挙に出馬していたが落選となっており、同氏が率いた祖国闘士党は1議席も獲得出来ず大敗を喫する格好となった。マハティール元首相が退任した20年以降、政局争いは複数の政党、候補が乱立しており、今回の選挙においても、早晩に政治の安定性を取り戻す結果にはならなかったと総括できるだろう。

本稿作成時点でもアンワル元副首相やムヒディン前首相による他政党との連立状況に関するヘッドラインが複数出ているものの、明確な方向感はまだ出ていない。なお、いずれの候補が首相となった場合でも、イスマイルサブリ政権下で既に来年度の予算案は作成済みであり、独自の政治色を打ち出すことは難しい印象がある。このほか、首相の地位を維持するためには継続して過半数の議員の支持を得る必要があることから、各党の思惑を汲んだ政策運営が要求されていくことが想定される。先述の通りマレーシア経済はコロナ前の水準を回復した状況にあるが、世界経済減速懸念に伴って成長率が減速する可能性や国内のインフレ抑制など経済面での課題も多い。引き続き各政党が一枚岩となって解決していく以外にないのであるが、現状そのハードルは高いと言わざるを得ないだろう。

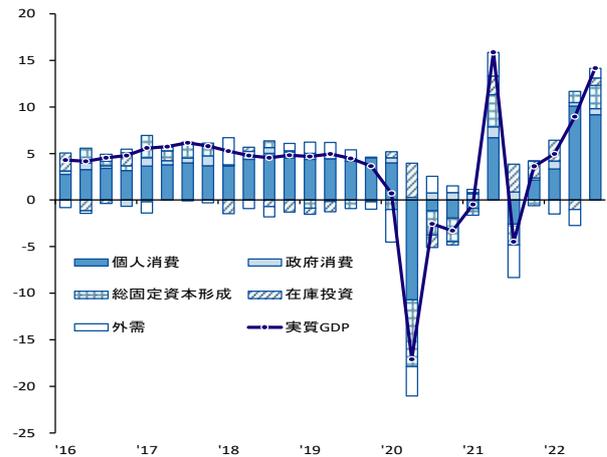
市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

図表 1: マレーシア総選挙獲得議席状況(11/20 時点)



出所: 各種報道よりみずほ銀行作成

図表 2: マレーシア実質 GDP 成長率(前年比%、%ポイント)



出所: マレーシア統計局、CEIC、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。